

薬 剤 部

1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	40 人	
その他（技術補佐員等）	8 人	
合計	49 人	

2 教員の異動状況

川上 純一（教授）（H18.4.1～現職）

3 研究業績

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	11 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	28.21	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	1 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	17 編	(17 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hori K, Kobayashi N, Atsumi H, Nagayama A, Kondoh M, Noge I, Kimura M, Utsugi H, Iwasaki T, Nakamura M, Kimura T: Changes in compliance with Japanese antiemetic guideline for chemotherapy-induced nausea and vomiting: a nationwide survey using a distributed research network. Support Care Cancer 22: 969–977, 2014 [2.50]
2. Tanaka N, Naito T, Yagi T, Doi M, Sato S, Kawakami J: Impact of CYP3A5*3 on plasma exposure and urinary excretion of fentanyl and norfentanyl in the early post-surgical period. Ther Drug Monit 36: 345–352, 2014 [1.93]
3. Ohshiro J, Yamamura H, Suzuki Y, Imaizumi Y: Modulation of TMEM16A-channel activity as Ca²⁺ activated Cl⁻ conductance via the interaction with actin cytoskeleton in murine portal vein. J Pharmacol Sci 125: 107–111, 2014 [3.00]
4. 見野靖晃, 内藤隆文, 笠原和香, 川上純一: 小児患者への処方, 調剤および与薬におけるインシデントの特徴. 医療薬学 40: 449–453, 2014 [0.00]
5. Osawa T, Naito T, Kaneko T, Mino Y, Ohnishi K, Yamada H, Kawakami J: Blood distribution of bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients. Clin Biochem 47: 54–59, 2014 [2.23]
6. Naito T, Yamada T, Mino Y, Kawakami J: Impact of inflammation and concomitant glucocorticoid administration on plasma concentration of triazole antifungals in immunocompromised patients. Clin Chim Acta 441: 127–132, 2015 [2.75]
インパクトファクターの小計 [12.41]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Antoku Y, Nakashima N, Yokoi H, Ohe K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: Evaluation of two Japanese regulatory actions using medical information databases: a “Dear Doctor” letter to restrict oseltamivir use in teenagers, and label change caution against co-administration of omeprazole with clopidogrel. J Clin Pharm Ther 39: 361–367, 2014 [1.55]
2. Horie A, Ishida K, Shibata K, Taguchi M, Ozawa A, Hirono K, Ichida F, Hashimoto Y: Pharmacokinetic variability of flecainide in younger Japanese patients and mechanisms for renal excretion and intestinal absorption. Biopharm Drug Dispos 35: 145–153, 2014 [2.18]
3. Higashi N, Waki M, Sue M, Kogane Y, Shida H, Tsunekawa N, Hasan A, Sato T, Kitahara A, Kasaoka T, Hayakawa Y, Nakajima M, Irimura T: Heparanase-mediated cleavage of macromolecular heparin accelerates release of granular components of mast cells from extracellular matrices. Biochem J 458: 291–299, 2014 [4.78]

4. Kiyota T, Takahashi Y, Watcharanurak K, Nishikawa M, Ohara S, Ando M, Watanabe Y, Takakura Y: Enhancement of anticancer effect of interferon- γ gene transfer against interferon- γ -resistant tumor by depletion of tumor-associated macrophages. Mol Pharm 11: 1542–1549, 2014 [4.12]
5. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito T: A detection algorithm for drug-induced liver injury in medical information databases using the Japanese diagnostic scale and its comparison with the Council for International Organization of Medical Sciences/the Roussel Uclaf Causality Assessment Method scale. Pharmacoepidemiol Drug Saf 23: 984–988, 2014 [3.17]

インパクトファクターの小計 [15.80]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. 見野靖晃, 山田尚広, 内藤隆文, 川上純一: 易感染性患者におけるトリアゾール系抗真菌薬の薬物動態に及ぼす炎症とグルココルチコイド併用の影響. 臨床薬理 45: S238, 2014
インパクトファクターの小計 [0.00]

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
 1. 川上純一, 内藤隆文: がん性疼痛緩和領域における個別化薬物療法の構築. 臨床薬理 45: 169–175, 2014 (2012 年度臨床薬理学研究振興財団賞学術奨励賞研究成果報告)
 2. 内藤隆文, 堀雄史: 薬物療法専門薬剤師がスタッフを支援、どんな業務も担当できる組織に育成. 薬剤部訪問: 浜松医科大学医学部附属病院, Excellent Hospital 23: 10–11, 2014
 3. 川上純一: 平成 26 年度診療報酬改定を終えて: 伝統に根ざし歴史を築く. 巻頭言, 日病薬誌 50: 641, 2014
 4. 川上純一: 病棟薬剤業務の効果と定着・拡充へ向けた課題. 薬局 65: 2209–2212, 2014
 5. 川上純一: 薬剤師による病院経営への貢献: チーム医療における病院薬剤師の役割. 病院 73: 774–778, 2014
 6. 内藤隆文: 薬のジェネラリスト「薬物療法専門薬剤師」-存在感増す、認定・専門薬剤師 (3) . CBnews マネジメント. キャリアブレイン (電子版) . 2014 年 9 月 2 日
 7. 堀雄史: 江口記念がん優秀論文賞を受賞して. 受賞報告, 日病薬誌 51: 1169, 2014
 8. 川上純一: がん治療の院内連携、地域連携: 分科会の見どころ・聞きどころ (執筆) . 薬事日報 No. 11485 (2014 年 10 月 6 日) , p. 11
 9. 川上純一: 病院経営・管理への貢献に向けた薬剤部マネジメント. Lilly Pharma Academy 1: 2–3, 2014
 10. 内藤隆文, 青野浩直, 堀雄史: クローズアップ Pharmacy. 医療経営情報 NEOSYS. 第 11 号. 2014 年 12 月, p.16–17
 11. 川上純一: 医療現場における薬学研究の道. 薬学研究奨励財団, 薬奨ニュース No. 20 (2015 年 1 月) , p. 8

12. 川上純一: 薬剤師のための臨床思考トレーニング. Book Review, 月刊薬事 57: 240, 2015
13. 川上純一: 巻頭言. 静岡県病院薬剤師会会報 64: 4-6, 2015
14. 堀雄史: 「江口記念がん優秀論文賞」を受賞して. 静岡県病院薬剤師会会報 64: 44-45, 2015
15. 平野公美: (西部地区) 病棟薬剤業務におけるスキルアップを考える会. 各支部の研究会・勉強会等の紹介, 静岡県病院薬剤師会会報 64: 52-53, 2015
16. 八木達也: 2014年(第49回)ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議に参加して. 日病薬誌 51: 330-332, 2015
17. 吉川望美: 母校を語る. 薬事新報 No. 2862 (2014年11月6日), p. 251.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 内藤隆文 (分担執筆): 免疫抑制薬 TDM 標準化ガイドライン 2014 (臓器移植編), 金原出版, p.57-74, 東京, 2014年11月
 2. 内藤隆文 (分担執筆), 川上純一 (分担執筆): 臨床検査データブック 2015-2016. 高久史磨 監修, 黒川清, 春日雅人, 北村聖編集, 医学書院, 東京, 2015年2月

4 特許等の出願状況

	平成26年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成26年度	
(1) 文部科学省科学研究費	8件	(640万円)
(2) 厚生労働省科学研究費	2件	(990万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件	(0万円)
(4) 財団助成金	3件	(170万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件	(0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件	(0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 内藤隆文 (代表), 川上純一 (分担): 平成26年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「がん悪液質の病態時におけるオピオイドによる鎮痛効果、有害作用の個人差要因の解明」 (平成26-28年度) (新規) 140万円 (平成26-28年度, 390万円)
2. 川上純一 (代表), 内藤隆文 (分担): 平成26年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「がん性疼痛緩和に用いる鎮痛薬の個人差要因に基づく至適薬物療法の構築」 (平成24-26年度) 120万円 (平成24-26年度, 410万円) (継続)
3. 川上純一 (分担), 堀雄史 (分担), 佐井君江 (代表): 平成26年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) 「医療情報データベースを用いた免疫関連バイオ医薬品と化学薬品間の相互作用評価」

20万円（平成25–27年度, 390万円）（継続）

4. 等浩太郎（代表）：平成26年度科学研究費補助金, 若手研究（B）「がん患者におけるオピオイドの鎮痛効果とドパミン神経系に及ぼす影響との関係解明」110万円（平成25–27年度, 330万円）（継続）
5. 高井伸彦（代表）：平成26年度科学研究費補助金, 奨励研究「アプレピタントがワルファリンの薬効および薬物動態に及ぼす影響の解析」70万円（新規）
6. 大澤隆志（代表）：平成26年度科学研究費補助金, 奨励研究「多発性骨髄腫患者における体内動態の解析に基づいたボルテゾミブ治療の最適化」60万円（新規）
7. 田代将貴（代表）：平成26年度科学研究費補助金, 奨励研究「抗悪性腫瘍剤ダカルバシンの光分解物濃度と血管痛との関係解明及び最適調製条件の確立」60万円（新規）
8. 佐藤聖（代表）：平成26年度科学研究費補助金, 奨励研究「がん悪液質患者における炎症性サイトカインがオキシコドンの体内動態に及ぼす影響」60万円（新規）

(2) 厚生労働科学研究費

1. 川上純一（代表）, 堀雄史（分担）, 木村通男, 大江和彦, 中島直樹, 横井英人, 池田俊也, 佐藤嗣道, 佐井君江, 頭金正博: 平成 26 年度厚生労働科学研究費, 医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の市販後安全対策における医療情報データベース利活用のための薬剤疫学研究」(平成 26 年度, 900 万円) (新規)
2. 川上純一（分担）, 中島直樹（代表）: 平成 26 年度厚生労働科学研究費, 医薬品等規制調和・評価研究事業「MID-NET を用いた医薬品等のベネフィット・リスク評価のための薬剤疫学研究等の実践的な分析手法及び教育に関する研究」90 万円（平成 26 年度, 2990 万円）（新規）

(4) 財団助成金

1. 内藤隆文（代表）：公益財団法人 骨粗鬆症財団. 第 11 回（平成 27 年度）リリー研究助成プログラム（骨領域研究）「骨粗鬆症患者におけるデノスマブの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明」80 万円（新規）
2. 見野靖晃（代表）, 内藤隆文（分担）：公益財団法人 薬学研究奨励財団. 第 35 回（平成 26 年度）研究助成金（グループ B）「高尿酸血症患者における薬力学的指標に基づくフェブキソスタット投与設計法の確立」70 万円（新規）
3. 八木達也: 日本病院薬剤師会（平成 26 年度）. ASHP ミッドイヤー臨床薬学会議参加助成 20 万円（新規）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	2 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	7 件
(3) 学会座長回数	0 件	13 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	2 件	50 件

(6) 一般演題発表数	5 件	
-------------	-----	--

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

口頭発表

1. Naito T, Yamada T, Mino Y, Kawakami J: Impact of inflammation and concomitant glucocorticoid on pharmacokinetic disposition of voriconazole and itraconazole in immunocompromised patients. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC2014). Apr 2014 (Melbourne, Australia)

ポスター発表

1. Ishida T, Naito T, Suda T, Kawakami J: Simultaneous determination of erlotinib and its major metabolites in human plasma using an isocratic liquid chromatography tandem mass spectrometry. 5th FIP Pharmaceutical Sciences World Congress (PSWC2014). Apr 2014 (Melbourne, Australia)
2. Hanatani T, Sai K, Tohkin M, Segawa K, Kimura M, Hori K, Kawakami J, Saito Y: Identification of drug-induced liver injury in medical information databases using the Japanese diagnostic scale. 30th International Conference on Pharmacoepidemiology & Therapeutic Risk Management (ICPE). Nov 2014 (Taipei, Taiwan)
3. Yagi T, Hirao K, Mino Y, Naito T, Kawakami J: Clinical impact of antibiotics on anticoagulation ability in patients receiving warfarin. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2014 Midyear). Dec 2014 (Anaheim, CA, USA)
4. Osawa T, Naito T, Kaneko T, Mino Y, Yamada H, Ohnishi K, Kawakami J: Blood distribution of bortezomib and its kinetics in multiple myeloma patients. American Society of Health-System Pharmacists (ASHP2014 Midyear). Dec 2014 (Anaheim, CA, USA)

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 見野靖晃: 自己免疫疾患患者における免疫抑制療法と感染予防法の最適化 (受賞講演) . 第 60 回日本薬学会東海支部大会, 鈴鹿, 2014 年 7 月
2. 見野靖晃: 全身性エリテマトーデス患者におけるイノシンーリン酸脱水素酵素活性評価の有用性 (第 7 回臨床薬理研究振興財団研究大賞受賞講演) . 第 7 回研究報告会. 臨床薬理研究振興財団, 東京, 2014 年 11 月

3) シンポジウム発表

1. 川上純一: 26 年度診療報酬改定とジェネリック医薬品の使用促進, 医療薬学フォーラム 2014 / 第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 日本薬学会医療薬科学部会, 東京, 2014 年 6 月
2. 堀雄史: 病院の診療情報データベースを利用した研究の実例. 薬剤疫学: 文献の批判的吟味と研究のヒント. 医療薬学フォーラム 2014 / 第 22 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 日本薬学会医療薬科学部会, 東京, 2014 年 6 月
3. 内藤隆文: 薬学的介入の症例サマリーの作成のポイント. 薬物療法専門薬剤師の立場から. 病院薬学セミナー. 第 24 回 日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会. 平成 26 年度 日本薬

学会東海支部例会・合同学術大会 2014, 静岡, 2014 年 11 月

4. 内藤隆文: がん患者におけるオキシコドンによる臨床効果の個人差要因. 病院薬剤師によるトランスレーショナルリサーチの最前線. 第 8 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 熊本, 2014 年 11 月
5. 堀雄史: 病院の診療情報データベースを利用した研究の実例. 薬剤疫学的利用のための医療情報システム DB 分析の実例. 第 15 回日本医療情報学会学術大会, 千葉, 2014 年 11 月
6. 川上純一: 臨床薬剤業務とチーム医療の推進. 薬剤師分科会企画セッション: NST における薬剤師のフィジカルアセスメントをどうするか, 第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 神戸, 2015 年 2 月
7. 堀雄史: がん化学療法による悪心嘔吐予防における制吐薬適正使用ガイドラインの遵守傾向～分散型研究ネットワークの実装～. 薬剤セッション: 医療連携の新展開～入院、外来、在宅における薬剤情報マネジメント. 平成 26 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議, 岐阜, 2015 年 2 月

4) 座長をした学会名

1. 川上純一: 第 60 回日本薬学会東海支部総会・大会 2014
2. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会第 8 回学術大会
3. 川上純一: 日本病院薬剤師会東海ブロック第 30 回東海医療薬学シンポジウム
4. 川上純一: 第 24 回日本医療薬学会年会
5. 内藤隆文: 第 24 回日本医療薬学会年会
6. 内藤隆文: 第 24 回日本医療薬学会年会
7. 川上純一: 第 47 回日本薬剤師会学術大会
8. 川上純一: 第 47 回日本薬剤師会学術大会
9. 川上純一: 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014
10. 川上純一: 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2014
11. 堀雄史: 日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会. 共催セミナー
12. 川上純一: 第 35 回日本臨床薬理学会学術総会
13. 川上純一: 日本臨床試験学会. 第 6 回学術集会総会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 川上純一: 日本病院薬剤師会 常務理事
2. 川上純一: 日本病院薬剤師会 医療政策部 部長
3. 川上純一: 日本病院薬剤師会 将来計画委員会 委員
4. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会 会長
5. 青野浩直: 静岡県病院薬剤師会 理事
6. 内藤隆文: 静岡県病院薬剤師会 評議員
7. 川上純一: 日本薬剤師会 常務理事
8. 川上純一: 日本薬剤師会 病院診療所薬剤師部会 部会長
9. 川上純一: 日本薬剤師会 薬価基準検討委員会 主担当理事
10. 川上純一: 国際薬剤疫学会 学会誌 (Pharmacoepidemiology and Drug Safety) 編集委員

(Associate editor)

11. 川上純一: The Open Drug Metabolism Journal 編集委員 (Editorial advisory board)
12. 川上純一: 日本医療薬学会 理事
13. 内藤隆文: 日本医療薬学会 代議員
14. 川上純一: 日本医療薬学会 会員委員会 委員長
15. 川上純一: 日本医療薬学会 第24回(平成26年度)年会組織委員会 委員
16. 内藤隆文, 堀雄史: 日本医療薬学会 第24回(平成26年度)年会実行委員会 委員
17. 川上純一: 日本臨床薬理学会 評議員
18. 川上純一: 日本臨床薬理学会 広報委員会 委員
19. 川上純一, 内藤隆文: 日本薬学会 代議員
20. 川上純一: 日本薬学会 医療薬科学部会 常任世話人
21. 内藤隆文: 日本薬学会 医療薬科学部会 次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム若手世話人
22. 川上純一: 日本薬学会 東海支部 幹事
23. 川上純一: 日本薬学会 医療薬科学部会 医療薬学フォーラム2015/第23回クリニカルファーマシーシンポジウム組織委員会 委員
24. 川上純一: 日本薬物動態学会 評議員
25. 川上純一: 日本薬物動態学会 学会活動活性化委員会 委員
26. 川上純一: 日本薬剤学会 評議員
27. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 理事
28. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会 国際委員会 副委員長
29. 川上純一: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会 大会長
30. 川上純一, 内藤隆文: 日本ジェネリック医薬品学会第9回学術大会 組織委員会委員
31. 内藤隆文: 日本TDM学会 TDMガイドライン策定委員会 委員
32. 川上純一: 第29回日本医学会総会 プログラム委員会ワーキンググループメンバー
33. 八木達也: 国公立大学病院感染対策協議会 ガイドライン作業部会 抗菌薬適正使用ガイドライン作成担当委員
34. 川上純一: 静岡県公立大学法人静岡県立大学 客員教授
35. 川上純一: 静岡県公立大学法人静岡県立大学 平成26年度教員特別研究推進費学外審査委員
36. 川上純一: 厚生労働省 医道審議会 薬剤師分科会 専門委員
37. 川上純一: 厚生労働省・中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員(診療報酬調査専門組織 医療機関コスト調査分科会 委員)
38. 川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員(薬価算定組織 委員)
39. 川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会・保険医療専門審査員(診療報酬調査専門組織 DPC 評価分科会 委員)
40. 川上純一: 厚生労働省 中央社会保険医療協議会 平成26年度診療報酬改定結果検証に係る調査検討委員会(委託事業) 委員

41. 川上純一: 厚生労働省 医療情報データベース基盤整備事業のあり方に関する検討会 構成員
42. 川上純一: 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 医薬品第一部会 委員
43. 川上純一: 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 医薬品第二部会 委員
44. 川上純一: 静岡県 薬事審議会 委員
45. 川上純一: 静岡県薬事振興会 理事
46. 川上純一: 静岡県薬剤師研修協議会 委員
47. 川上純一: 東海地区薬学部学生病院・薬局実務実習調整機構 委員
48. 川上純一: 静岡県立大学 研究倫理審査委員会委員
49. 川上純一: 独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員
50. 川上純一: 独立行政法人科学技術振興機構 (JST) 研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) 専門委員
51. 川上純一: 公益財団法人日本医療機能評価機構 評議員
52. 川上純一: 公益財団法人薬学研究奨励財団 選考委員会 委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	2 件

(2) 外国の学術雑誌の編集

1. 川上純一: 国際薬剤疫学会 学会誌 (Pharmacoepidemiology and Drug Safety) 編集委員 (Associate editor) PubMed/Medline 登録有, IF3.172
2. 川上純一: The Open Drug Metabolism Journal 編集委員 (Editorial advisory board) PubMed/Medline 登録無, IF 無し

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. 川上純一: Pharmacoepidemiol Drug Saf 1 件 (UK)
2. 内藤隆文: Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 1 件 (Japan)
3. 堀雄史: Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 1 件 (Japan)

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	4 件
(3) 学内共同研究	9 件

(2) 国内共同研究

1. 杉原正久 (沢井製薬): 産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
2. 辻泰弘 (富山大学): 日本人における抗 MRSA 薬の母集団薬物動態解析 (長崎大学, 別府医療センター)
3. 齋藤嘉朗, 佐井君江, 花谷忠昭 (国立医薬品食品衛生研究所), 頭金正博 (名古屋市立大学): 医療情報データベースを用いた副作用検出方法に関する検討

4. 伊藤善規 (岐阜大学) : 薬剤師業務のアウトカムの評価に関する検討

(3) 学内共同研究

1. 小川法良 (免疫内科) : 関節リウマチ患者における免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係
2. 大西一功 (血液内科) : 多発性骨髄腫における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
3. 土井松幸 (集中治療部) : 重症感染症患者における抗菌薬の血中動態、薬剤感受性および組織移行性の評価
4. 土井松幸 (集中治療部) : 集中治療管理下における鎮静剤の臨床効果および有害作用の個人差要因の解明
5. 佐藤重仁 (麻酔科蘇生科) : 術中疼痛に対する鎮痛薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
6. 須田隆文 (呼吸器内科) : 非小細胞肺癌患者における抗がん薬の体内動態と薬効・有害作用の変動予測法の構築
7. 伊東宏晃 (周産母子センター) : 産後高血圧症治療薬の母乳への移行性の評価
8. 伊東宏晃 (周産母子センター) : 妊娠中の抗菌薬膈錠の血中への移行性の評価
9. 木村道男 (医療情報部) : 臨床研究情報システムを用いた副作用の検出方法に関する検討

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

(3) 国内での授賞

1. 田代将貴: Postdoctoral Award, 日本医療薬学会 (平成 26 年度) . オピオイド鎮痛薬投与ががん患者におけるプロクロルペラジンの薬物動態学的および薬力学的臨床研究
2. 石田卓矢: 学術奨励賞, 日本病院薬剤師会 (平成 26 年度) . 石田卓矢, 内藤隆文, 大澤隆志, 山川花朱美, 川上純一: 日本における製薬企業による医療用医薬品の自主回収の実態調査. 日本病院薬剤師会雑誌 49: 283-286, 2013
3. 堀雄史: 第 2 回江口記念がん優秀論文賞, 日本病院薬剤師会 (平成 26 年度) . Hori K, Kobayashi N, Atsumi H, Nagayama A, Kondoh M, Noge I, Kimura M, Utsugi H, Iwasaki T, Nakamura M, Kimura T: Changes in compliance with Japanese antiemetic guideline for chemotherapy-induced nausea and vomiting: a nationwide survey using a distributed research network. Support Care Cancer 22: 969-977, 2014
4. 見野靖晃: 第 7 回臨床薬理研究振興財団研究大賞 (平成 26 年度) . 全身性エリテマトーデス患者における代謝拮抗性免疫抑制薬のイノシンーリン酸脱水素酵素活性に基づく薬効評価
5. 見野靖晃: 学術奨励賞, 日本薬学会東海支部 (平成 26 年度) . 自己免疫疾患患者における免疫抑制療法と感染予防法の最適化

15 新聞, 雑誌等による報道

1. 川上純一: 静岡県病院薬剤師会総会 川上会長「力や勇気を与えてくれる」(記事). 薬事新報 No. 2831 (2014年4月3日), p. 22-23
2. 川上純一: 佐藤記念国内賞に川上教授(記事). 薬事新報 No. 2831 (2014年4月3日), p. 38
3. 川上純一: 平成26年度診療報酬改定のポイント(出演). ラジオNIKKEI「病薬アワー」, 2014年4月14日
4. 川上純一: 佐藤記念国内賞受賞講演: 臨床薬理学と薬剤疫学, 医療現場で両研究を展開(記事). 医薬ジャーナル 50: 1316-1317, 2014
5. 川上純一: 佐藤記念国内賞受賞川上純一氏の業績(記事). 鈴木洋史, ファルマシア 50: 458, 2014
6. 川上純一: 宮城県病薬平成26年度総会 川上純一氏が特別講演, 26改定と病院薬剤師の方向性(記事). 薬事新報 No. 2837 (2014年5月8日), p. 22
7. 川上純一: 薬剤管理指導料と病棟加算は一本化?: 点描(記事). 薬事新報 No. 2838 (2014年5月15日), p. 38
8. 川上純一: 生活改善で高血圧防げ(記事). 静岡新聞 No. 26,000 (2014年6月2日), p. 15
9. 川上純一: 正しく学ぼう高血圧とジェネリック医薬品: 静岡市しずぎんホールユーフォニア. ほっこりトピックス(情報番組), Sole いいね!, SBS テレビ, 2014年6月3日
10. 小野寺知哉, 川上純一, 早見優, 吉本恵: 高血圧だと心臓が危ない?!, 正しく学ぼう高血圧とジェネリック医薬品(採録記事・全面広告). 静岡新聞 No. 26,031 (2014年7月4日), p. 17
11. 川上純一: サプライズ人事: 点描(記事). 薬事新報 No. 2845 (2014年7月10日), p. 38 (739)
12. 川上純一, 丸山修治: SGLT2 阻害薬「カナグリフロジン」の服薬指導のコツ(インタビュー記事). 薬事日報 No. 11449 (2014年7月11日), p. 8
13. 川上純一: 統合倫理指針案の特徴と対応: 川上純一氏(浜松医科大学教授・医学部附属病院薬剤部長)に聞く(インタビュー記事). 薬事日報 No. 11484 (2014年10月6日), p. 5
14. 川上純一: 抗がん剤「曝露対策」進展に高まる期待: 厚労省が“労働問題”として傾向, 日病薬は報酬評価「拡大」を要望へ(記事). リスファクス No. 6680 (2014年10月27日), p. 2
15. 川上純一: 博士課程の充実めぐり議論: 研究力不足に懸念相次ぐ. 東海ブロック合同大会(記事). 薬事日報 No. 11501 (2014年11月17日), p. 2
16. 川上純一: 日病薬東海ブロック・薬学会東海支部 合同学術大会を開催, 700名が参加. 薬事新報 No. 2867 (2014年12月11日), p. 22-23
17. 川上純一: 大阪府病薬中堅薬剤師研修会 川上氏(浜松医大)が講演(記事). 薬事新報 No. 2872 (2015年1月15日), p. 22-23
18. 川上純一: フィジカルアセスメントが重要: 静脈経腸栄養学会, 栄養療法 副作用症状の発見に(記事). 薬事日報 No. 11537 (2015年2月18日), p. 3
19. 川上純一: 日病薬 中医協専門員としての参加「必要性かんじていない」(記事). リスファクス No. 6762 (2015年3月2日), p. 6
20. 川上純一: 日本病院薬剤師会第50回臨時総会 協議事項、ブロック代表質問など. 薬事新報 No. 2881 (2015年3月19日), p. 22-231.